

多様性を認識し自己を高める

保護者並びに大学関係者の皆様には平素より後援会への御理解と多大なる御支援をいただき誠にありがとうございます。

そろそろ学期末や卒業を迎える季節となりますが、学生の皆さんはそれぞれの進級、進学、就職を目前に控え、特に就職される学生の皆さんは新たな旅立ちに向け大きな夢と希望そして多少の不安を抱えながら過ごされていることと思います。

私自身は大学を卒業後、精密機器メーカーへ就職し生産技術者として新製品の開発や国内外生産拠点での生産立上げに長く携わってきました。

いつか海外で仕事をとの夢もありアメリカに約8年間駐在しましたが、御存知の通りアメリカは多民族国家であり、多くの人種、言語、文化が混在し、様々な考え方やバックグラウンドを持った人達が集まっています。そこで私なりに出した結論のひとつが『これがアメリカ、ここがアメリカ』ではなく『これもアメリカ、ここもアメリカ』ということでした。いわゆる『多様性』を自身の肌で実感したわけです。

たくさんの失敗や苦労もありましたが、そこで得た知見や経験がその後の生き方や考え方に大きく影響したことは言うまでもありません。

現在、東京都市大学において進められている国際人材育成プログラムのTAPもまた、単なる語学研修ではなく、日本の外を見て経験することで多様性を認識し、自己を高める、まさに狙いはそういうところにあるのだと思います。

昨今、多様性という言葉が社会全体の様々な場面で使われており、多くの企業でもグローバル化が進み、多様性の中から新たな革新や価値を生み出そうとしています。野球チームに例えれば9人全員がエースで4番ではなく、状況に応じて役割を果たせるラインナップが重要ということでしょうか。

東京都市大学で学ぶすべての学生の皆さんが日々の活動を通し見聞を広める中で多様性を認識し、更に自己を高め、将来幅広く社会に貢献してくれるものと強く期待しております。後援会もバックアップしますので頑張ってください。



東京都市大学
後援会副会長

石垣 潤